

(4) 地衣類概説

地衣類は菌類が藻類を取り込みコケのような形状の共生体（地衣体）になり、両者のバランスで様々な形の地衣体が一つの植物体（菌体）として扱われている。地衣類の成長速度は遅く、特別の種類を除いて、環境の変化にも弱いものが多いといわれている。身近なウメノキゴケやマツゲゴケのような街中の大型な地衣は大気汚染の指標植物として知られている。

また、地衣類は着生植物でもあり、その着生は樹皮上、岩石上、土壌上、腐植質林床のコケの上、常緑広葉樹の葉上等さまざまである。

樹皮生のなかでも、幹の根元付近にコケ（蘇苔類）と混ざって生えるもの、太い幹の樹肌上或いは枝先の小枝に絡みつく様に着生するもの、特定の樹種を選ぶものもある。

岩上生にしても石灰岩或いは珪質岩石や砂岩といった特定の岩石のみに着生するものも知られている。また、墓地の墓石上も同様に着生し、これらの着生基物や気候等への適応性の幅は種類によって大きく異なる。

なかには着生基物を選ばないものもありコンクリートやガードレールなどの人工的な構築物に付着し、成長するものもある。しながら、多種多様な地衣でも特定の基物や限られた気候気象条件のもとでしか生育できない種類や、また、何らかの要因で個体数や生育地の減少がみられる種類もあり、それらが掲載種となることは他の植物群と同じである。

国内で確認されている生物群の個々の種類ごとの動向調査は、大きくは動物分野と植物分野毎に環境省や県の関係機関から「レッドデータブック」として集約・公表されている。本報告に関連するものとして、『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・植物Ⅱ（維管束植物以外）蘇苔類、藻類、地衣類、菌類 2000』、直近では『改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物_植物Ⅱ（2000）、Red Data Book 2014, 9（植物Ⅱ）（2014）』が公表されている。同様に埼玉県でも 2005 年に『埼玉県レッドデータブック 植物編 2005』（2005）、『埼玉県レッドデータ 2011 植物編 埼玉県の希少野生生物』（2011）が出版されている。

今回の「地衣類」調査でも、過去のデータを基に、文献に記載されているがその後ほとんど生育の記録がないもの、石灰岩等の特定の基物のみに着生し、近年その生育地や個体数が減少していると思われるもの、数や量的に減少がみられるもの、本県とその近辺の限られた地域のみに生育が知られるものでその生育地が稀なものや個体数が減少しているもの等を対象とした。

分布や生育地に関するデータは文献の他、国立科学博物館（TNS）及び埼玉県立自然の史博物館（SMNH）に所蔵する標本のラベルデータをもとにし、その採集者名、採集年を記載した。調査の結果新たな種の追加や除外はなかったため、前回と同じ 69 種を絶滅が危惧される地衣類として挙げた。その内訳をみると、絶滅危惧Ⅰ類（CE）17 種類、絶滅危惧Ⅱ類（VU）23 種類、準絶滅危惧種（NT）29 種類である。各論におけるこれら 69 種類の配列は「新版植物誌、地衣類」に準じた。

また、現地調査地域（特に秩父地域）では特に国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図に記述されている都県境の登山道周辺は生物地理的にも同一なことからそれらからのサンプルの産地記録は今報告では埼玉県とした。具体的には長野県（南佐久郡川上村）との県境の三国尾根の梓白岩、大山南斜面、三宝山三宝岩である。特に三宝岩では高山性のアナイワタケ、アワモチゴケ、タカネイワタケ、イリタマゴゴケ、コガネトコブシゴケ、クロダケトコブシゴケ、タカネゴケモドキ、アナイワタケ、クロダケトコブシゴケ、タカネゴケモドキ、コフキイバラキノリ、コフキハリガネキノリなどが確認された。さらに山梨県側の雲取山から甲武信ヶ岳間の県境も今調査の対象とした。また、長年再確認できなかった雲取山からの記録があったトゲカブトゴケが東京都奥多摩町側の水源涵養林内で再確認することができた。以上のことから、隣接区域を含め、精査すれば新たな知見や再発見の余地は残されている。

一方、三峰山妙法ヶ岳が模式産地のガリンイワノリはコンクリート製手すり支柱に着生していたもの（元国立科学博物館・故黒川道先生談話及びその証拠標本から）で、現在その支柱は撤去され、産地は消失していた。また、クロカワアワビゴケの模式産地であったヒノキの樹皮上でも取り残しの個体はおろか、新たな個体もなく着生は確認できなかった。

絶滅が危惧される地衣類として挙げた 69 種を地域別にみると、そのうちほとんどの 67 種類は秩父地域に稀産し、秩父地域以外ではキンブチゴケ (*Pseudocyphellaria aurata*) とカバイロイワモジゴケ (*Graphis cervina*) の 2 種だけである。なお、カバイロイワモジゴケは入間地域の 2 か所 (飯能市、越生町) で記録されている。キンブチゴケも同様に入間地域でただ一度だけ、1978 年に記録されているが、愛知県以西に知られる暖地生の地衣である。現在でもその生育地や隣接地域にも見あたらない。よって、埼玉県から姿を消したと言わざるを得ない。

テガタアオキノリ (*Scytinium palmatum*) については、広島県と埼玉県の 2 か所に知られるだけで、県内では唯一度、両神村 (現小鹿野町) での記録 (1955 年、タイプロカリティ) だけである。しかしながらトゲカブトゴケ (*Lobaria kazawaensis*) においては、群馬県 (1925 年、タイプロカリティ) と埼玉県 (1932 年)、新潟県 (1949 年) で各一回記録されているだけではあったが、その後半世紀を経て 2018 年に雲取山の奥多摩側でコハウチワカエデの樹幹で確認された。

秩父地方には大小さまざまな規模の石灰岩地形がみられる。石灰岩生の地衣のなかには、開発その他の要因でその生育地や個体数が減少しているものが多い。石灰岩に直接着生するものとしてガリンイワノリ (*Scytinium callopismum*)、アカツブノリ (*Synalissa symphorea*)、オオバキノリ (*Thyrea latissima*)、イシバイキノリ (*Thyrea confusa*)、フジカワゴケ (*Toninia tristis* subsp. *fujikawae*)、アカサビゴケ (*Xanthoria mandschurica*) の 6 種を挙げた。これらのうち、オオバキノリは徳島県と岡山県に、フジカワゴケは近県の群馬県と長野県その他、岩手県に、さらに雲取山頂の山梨県側にも記録されている。これら 2 種はいずれも日本特産種である。*Scytinium callopismum* は県外では徳島県 (剣山) に知られるだけで、アカツブノリは秩父山地が北限で本州以南に点在し、イシバイキノリは岩手県を北限とするが、これら 3 種は欧州、北米などにも知られる。

また、ヒメトサカゴケ (*Scytinium lichenoides*) とヒラミヤイトゴケ (*Solorina platycarpa*) は石灰岩や石灰質土壌上だけに生育する。ヒメトサカゴケは本州中部 (関東以南) から九州、欧州、北米等に分布するが、ヒラミヤイトゴケは日本特産で長野県その他、徳島県に飛び石分布する。クロカワアワビゴケ (*Usnocetraria kurokawae*) は樹皮生で岩石とは無関係だが秩父山地と愛媛県だけに生育が知られる。

日本では、本州中部の長野県と埼玉県 (秩父山地に接する山梨県、東京都を含む場合もある) だけに生育が知られるものがある。ここでは、コフキハリガネキノリ (*Bryoria nadvornikiana*)、アカゾメトコブシゴケ (*Cetrelia isidiata*)、ニューガサウメノキゴケ (*Hypotrachyna sinuosa*)、オオカムリゴケ (*Pilophorus acicularis*)、トゲタイワントコブシゴケ (*Platismatia erosa*)、シナノカラタチゴケ (*Ramalina shinanoana*) 等の 6 種をとりあげた。これらのなかでコフキハリガネキノリは北米にも知られるが、シナノカラタチゴケは日本特産であり、その他のアカゾメトコブシゴケ、ニューガサウメノキゴケ、オオカムリゴケ、トゲタイワントコブシゴケなどはなぜか本州中部から台湾に飛び石分布する。コフキハリガネキノリに類似するコフキイバラキノリ (*Bryoria furcellata*) もコフキハリガネキノリと同じような分布をするが、本種は岩手県にも知られる。

キセガワノリ (*Thyrea asahinae*) やミタキレンダイゴケ (*Lichinella hondana*) は着生基物が川岸や河原の岩石 (非石灰質) に限られて本州、四国、九州、中国大陆に点在することが知られているが本県では長瀬付近の荒川の川岸に生育がみられるだけである。

ニセゴンゲンゴケ (*Hypotrachyna exsecta*) やウラジロオオイワブスマ (*Lasallia sinorientalis*) はいずれも秩父山地が分布のほぼ北限に相当すると思われ、その生育地や個体数は極めて少ない。その他のハコネゴンゲンゴケ (*Hypotrachyna revoluta*)、コウヤウメノキゴケ (*Remototrachyna koyaensis*)、ノダケウメノキゴケ (*Hypotrachyna nodakensis*) などのゴンゲンゴケ属 (*Hypotrachyna*) には暖地生のものが多く、これらのなかには近県に知られるものもあるが概ね北限とみられる。ヤマトフクロゴケ (*Hypogymnia metaphysodes*)、トゲヨロイゴケ (*Sticta weigelii*)、オオスルメゴケ (*Tuckermannopsis ulophylloides*) 等も同じように秩父山地がほぼ北限とみられ、その生育地や個体数は少ない。

タカネイワタケ (*Umbilicaria vellea*) は本州中部以北の高山や極地の岩石に生育が知られる

地衣だが、これが十文字峠やその付近に希産する。キゴヘイゴケ (*Parmeliopsis ambigua*) は針葉樹などの樹皮生だがタカネイワタケと同じような傾向がみられる。

ヘラゴケ (*Glossodium japonicum*) は我が国では山地から亜高山帯の安定した森林の針葉樹の朽ちた切り株や立木上に生育する地衣で北海道～九州に点在するがなぜか秩父山地には少ない。本種は三峰山がタイプロカリティ (岡見, 1925) である。ラッパゲジゲジゴケ (*Heterodermia hypochraea*)、コツブセンニンゴケ (*Baeomyces aggregatus*)、センニンゴケ (*Dibaeis arcuata*)、トガシアワビゴケ (*Nephromopsis togashii*) 等も秩父山地にはその生育地や個体数のいずれも大変少ない。これらは森林の伐採や山道工事、その他の開発等による日照や気温、空中湿度等の微気象的变化が複合的に影響しているものと思われる。

地衣の形態的特徴を表現するための用語がある。ここでは、本稿で使用した用語を中心として比較的よく使われている用語について解説する (五十音順)。

石垣状多室 (いしがきじょうたしつ)；胞子が縦、横に隔膜によって多数の室に分割されている。

痂状地衣 (かじょうちい)；地衣の生育形の一つで、地衣体が基物に密着してかさぶたのように固着する。

偽根 (ぎこん)；多くの葉状地衣の裏側にある基物に付着するためにあるひげ状の突起。

擬盃点 (ぎはいてん)；地衣体の皮層をつき破って髄層から外に通じる小孔、その小孔の縁が明確にしきられていれば盃点という。

基物 (きぶつ)；地衣が着生しているところ。岩石、樹皮、木材、土壌など。

基本葉体 (きほんようたい)；ハナゴケ属 (*Cladonia*) などで、顆粒状或いは鱗片状の地衣体で、そこから子柄が発生する。

擬子柄 (ぎしへい)；キゴケ属 (*Sterocaulon*) やセンニンゴケ属 (*Baeomyces*) などの樹枝状地衣体ではその先端に子器が生じて、あたかも子柄のようにみえる。

固着地衣 (こちゃくちい)；地衣の生育形、痂状地衣ともいう。地衣体の菌糸の一部は基物に密着する。種類によっては菌糸はさらに基物内にも入る。

子器 (しき)；胞子を生ずる子のうをもったつくり。

糸状地衣 (しじょうちい)；地衣の生育形の一つ、地衣体が糸状で先の方も元の方も太さがほとんど変わらない、頻繁に分岐して基物から立ち上がったたり、垂れ下がったりする。

子柄 (しへい)；子器柄ともいう。地衣体より伸長してできた柄状の部分で先端に子器を生じる。

樹枝状地衣 (じゅしじょうちい)；地衣の生育形の一つで地衣体 (多くの場合偏平) が分岐して樹枝状を呈す。分岐した地衣体が糸状でその太さがほとんど変わらなければ糸状地衣という。

シリア；菌糸の集合した細長いもので葉状地衣の裂片の縁部に沿ってあるマツゲのようなもの。

ソラリア；地衣体の縁部や表面にある、粉芽のあつまり。

地衣成分 (ちいせいぶん)；多くの地衣類は特定の二次代謝産物 (地衣成分) を含んでいるので、形態的特徴と併せて種の形質 (生理的特徴) として利用されている。ここでは各論の形態の特徴の項でおもな地衣成分を示した

地衣体 (ちいたい)；子器などの繁殖体に対するもので地衣の栄養体全部をさす。

パスチュール；地衣体表面のあわ状の突起、のちにこわれて粉芽状になる。

パピラ；地衣体からでる小さな粒状の突起。

粉芽 (ふんが)；ソレジアのこと。地衣体の表面にできた粉末状のつくりで、藻類と菌類が混ざっていて表面に皮層はない。

葉状地衣 (ようじょうちい)；地衣の生育形の一つ、偏平な裂片が集まって葉状を呈する。

鱗片状地衣 (りんぺんじょうちい)；地衣の生育形の一つで葉状体の裂片が小さく、およそ径

1 cm 以下の場合に、葉状地衣と区別して使われる。

裂芽 (れつが)；イシチアのこと。針芽ともいう。皮層をもった微少な円筒状、サンゴ状の突起。

裂片 (れっぺん)；葉片ともいう。葉状地衣の地衣体の分岐

4001 イワタケ科

(和名) ウラジロオオイワブスマ

(学名) *Lasallia sinorientalis* J.C.We

埼玉カテゴリー

2024 VU

2005 VU

2011 VU

1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域で、唯一の産地記録があるだけである。1995年以降の採集記録はない。他県ではあるが、量的にも少なく、減少傾向にあると思われる。

【県内生育状況】山地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】学名変更。本州・埼玉県～四国まで分布する葉状地衣。県境となっている山梨側雲取山からも記録されている。妙法ヶ岳での着生は再確認できていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰山妙法ヶ岳（県内唯一の産地）

4002 イワタケ科

(和名) アナイワタケ

(学名) *Umbilicaria torrefacta* (Lightf.) Schrad.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2005 NT

2011 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】北海道～本州中部、九州の高山帯または高山性地域に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

大山、武信白岩、三宝山

4003 イワタケ科

(和名) タカネイワタケ

(学名) *Umbilicaria vellea* (L.) Hoffm.

埼玉カテゴリー

2024 VU

2005 VU

2011 VU

1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、量的には少ない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】北海道～四国の高山帯または高山性地域に分布する葉状地衣。近隣では八ヶ岳や西駒ヶ岳などに記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

武信白岩、大山

4004 イワノリ科

(和名) ガリンイワノリ

(学名) *Scytinium callopismum* (A.Massal.) Otolora et al.

埼玉カテゴリー

2024 CE

2005 なし

2011 CE

1998 なし

全国カテゴリー

2020 NT

【評価所見】稀少種かつ稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には極めて少ない。1960年代に記録されているが、その後の採集記録はない。

【県内生育状況】秩父山地の石灰岩露頭やコンクリート造作物上に着生する。

【特記事項】学名変更。本州中部および四国に分布する鱗片状地衣。TNSに保管される標本のラベルに記された産地からの再発見報告はない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰山妙法ヶ岳（TNS）、武甲山（TNS）

4005 イワノリ科

(和名) テガタアオキノリ

(学名) *Scytinium palmatum* (Huds.) Gray

埼玉カテゴリー

2024 CE

2005 なし

2011 CE

1998 CE

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】稀少種かつ稀産種。秩父両神山山麓で採集され、新変種として記載された（Kurokawa, 1956）が、その後の新たな産地報告はない。

【県内生育状況】岩石上のコケの間に着生する。

【特記事項】学名変更。母種に含められ、埼玉県と広島県だけに分布する葉状地衣だが、県内においては絶滅の可能性が大きい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

秩父両神山山麓日向大谷（TNS）（県内唯一の産地）

4006

イワノリ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ヒメトサカゴケ

〔学名〕

Scytinium lichenoides (L.) Otálora et al.

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。石灰岩採掘により産地が失われたところもある。

【県内生育状況】

山地帯以上の石灰岩や石灰質土壤上に直接、あるいはコケと一緒に着生する。

【特記事項】

本州～九州に分布する小さな樹枝状形の集合、暗褐色のマット状の地衣。近隣では群馬県の叶山などでも記録されていた。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

武甲山、二子山、赤沢岳、梓白岩、奥秩父林道沿い、白岩山

4007

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

イリタマゴゴケ

〔学名〕

Arctoparmelia incurva (Pers.) Hale

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、群生することはない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】

北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。奥秩父の長野県の高峰山にも記録されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

大山、武信白岩、三宝山、雁坂峠

4008

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

コガネトコブシゴケ

〔学名〕

Asahinea chrysantha (Tuck.) W.L.Culb. & C.F.Culb.

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産する。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の高山性岩角地の地表面の非石灰質岩上に着生する。比較的大きなコロニーとなる。

【特記事項】

日本固有種。北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

十文字峠、大山、三宝山、雁坂峠

4009

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

クロダケトコブシゴケ

〔学名〕

Asahinea scholanderi (Llano) W.L.Culb. & C.F.Culb.

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産する。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の高山性岩角地の地表面の非石灰質岩上に着生する。他の地衣と混生する。

【特記事項】

日本固有種。北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。長野県には、八ヶ岳など多くの産地がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

大山、武信白岩

4010

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

コフキイバラキノリ

〔学名〕

Bryoria furcellata (Fr.) Brodo & D.Hawksw.

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。量的には減少傾向にあるが、初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地帯から上部にみられる、主にカラマツなどの針葉樹の樹皮や枝上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】

日本固有種。本州、岩手県以南の中部に分布する樹枝状地衣。県境の長野県側カラマツ林には普通に見られる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

両神山、三峰山、雲取山、将監峠、三国尾根

4011 ウメノキゴケ科

(和名) フジキノリ

(学名) *Bryoria lactinea* (Nyl.) Brodo & D.Hawksw.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2005 NT

2011 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。量的には減少傾向にある。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山地帯から上部にみられる、主に針葉樹の樹皮や枝上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】日本固有種。本州中部に分布する樹枝状地衣。類似種と混生するので、注意が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

甲武信岳、雲取山、両神山、白岩山、雁坂峠、将監峠、大山

4012 ウメノキゴケ科

(和名) コフキハリガネキノリ

(学名) *Bryoria nadvornikiana* (Gyeln.) Brodo & D.Hawksw.

埼玉カテゴリー

2024 CE

2005 CE

2011 CE

1998 CE

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀少種かつ稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。県内唯一の産地が記録された1986年以降、分布報告はない。

【県内生育状況】亜高山帯のカラムツなどの幹に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】本州中部に分布する樹枝状地衣だが、今のところ埼玉県と長野県で確認されているに過ぎない。類似種と混生することが多く、見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

三宝山（県内唯一の産地）

4013 ウメノキゴケ科

(和名) アカゾメトコブシゴケ

(学名) *Cetrelia isidiata* (Asahina) W.L.Culb. & C.F.Culb.

埼玉カテゴリー

2024 VU

2005 NT

2011 VU

1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産するが、量的には減少傾向にある。1993年以降の採集記録がない。

【県内生育状況】山地帯から上部にみられる針葉樹等の樹皮上に着生する。

【特記事項】本州中部に分布する葉状地衣。類似種との混生もあり、混同することもある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

雲取山、大平山、両神山、三峰山、赤岩峠、古礼山、三国尾根、雁坂峠

4014 ウメノキゴケ科

(和名) ヤマトフクロゴケ

(学名) *Hypogymnia metaphysodes* (Asahina) Rass.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2005 NT

2011 NT

1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の亜高山帯地域に産し、量的にも少ない。唯一の産地となった1981年の記録以降、その後の分布報告はない。

【県内生育状況】山地の登山道脇マツ類の幹部の樹皮上に着生する。

【特記事項】北海道から九州にかけて分布する葉状地衣。県境となっている雲取山と将監峠の山梨側では記録されている。類似種と混生する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

真の沢谷（県内唯一の産地）

4015 ウメノキゴケ科

(和名) ニッコウフクロゴケ

(学名) *Hypogymnia nikkoensis* (Zahlbr.) Rass.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2005 NT

2011 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の亜高山帯地域に産する。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】高山性の風衝地やそれに似た環境のカラムツなどの樹枝上に枝を取り巻くように着生する。

【特記事項】日本固有種。本州中部に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雲取山、和名倉山、地藏岩（雁坂峠付近）、突出峠、三国尾根、武信白岩～三宝山

4016

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 なし

2011 CE
1998 なし

(和名)

クイシウメノキゴケ

(学名)

Remototrachyna crenata (Kurok.) Divakar & A.Crespo

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

稀産種。秩父山地の亜高山帯地域に産するが、量的にはきわめて少ない。1964年以降の埼玉県からの採集記録はない。

【県内生育状況】

山地の岩石上に着生する。

【特記事項】

文献記録とTNS標本のみだが、本県以外では、三重県、和歌山県や徳島県、愛媛県、高知県から記録されている葉状地衣。ゴンゲンゴケ類の類似種との混同で見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰山（TNS）（県内唯一の産地）

4017

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

(和名)

コウヤウメノキゴケ

(学名)

Remototrachyna koyaensis (Asahina) Divakar & A.Crespo

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地や外秩父山地で産するが、量的には少ない。

【県内生育状況】

平地から低山帯の樹皮上、岩石上に着生する。

【特記事項】

本州関東以南～九州にかけて、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。ゴンゲンゴケ類の類似種との混同で見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○	○				

小鹿野町岩殿沢、秩父市浦山、越生町黒山、栃本（TNS）

4018

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

(和名)

ノダケウメノキゴケ

(学名)

Hypotrachyna nodakensis (Asahina) Hale

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地で産するが、量的には少ない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の樹皮や岩石上に着生する。

【特記事項】

本州関東以南～九州にかけて分布する葉状地衣。県境となる雲取山、雁峠、将監峠の山梨県側でも確認されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町志賀坂峠、尾の内尾根、霧藻ヶ峰

4019

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 なし

(和名)

ハコネゴンゲンゴケ

(学名)

Hypotrachyna revoluta (Florke) Hale

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地で産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

低山地の樹皮や岩石上に着生する。

【特記事項】

本州関東以南～九州にかけて、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。ほかのゴンゲンゴケ類と混同し、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

入川溪谷、秩父市浦山川俣

4020

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 VU

2011 CE
1998 VU

(和名)

ニューガサウメノキゴケ

(学名)

Hypotrachyna sinuosa (Sm.) Hale

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

稀少種かつ稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には極めて少なく、減少傾向にある。

【県内生育状況】

山地のカラムツ等の樹枝上に着生する

【特記事項】

本州中部に分布が知られている葉状地衣。県境となっている将監峠・山梨県側や三国尾根・長野県側からも記録されている。また、八ヶ岳や入笠山などからも記録されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

三国峠～十文字峠間（県内唯一の産地）

4021 ウメノキゴケ科

(和名) タカネゴケモドキ

(学名) *Melanelia hepatizon* (Ach.) A.Thell

埼玉カテゴリー

2024 NT

2011 NT

2005 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】高山の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】北海道～本州中部の高山帯に分布する。黒褐色の小さな葉状地衣体であることから見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

大山、三宝山

4022 ウメノキゴケ科

(和名) コナタカネゴケ

(学名) *Montanelia soreliata* (Ach.) Divakar et al.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2011 NT

2005 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 DD

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯地域で産し、量的には極めて少ない。1972年に日本新産で報告されたが、その後の記録はない。

【県内生育状況】高山性地域の非石灰質の岩上に着生する。

【特記事項】2007年環境省版の新規掲載種。県外分布もほとんど知られていないが、黒褐色の小さな葉状地衣体であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

大山（県内唯一の産地）

4023 ウメノキゴケ科

(和名) タカネゴケ

(学名) *Melanelia stygia* (L.) Essl.

埼玉カテゴリー

2024 NT

2011 NT

2005 NT

1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】高山性風衝地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】隣接する中部山岳から北海道まで広く分布している。やや光沢のある黒い葉状地衣体は小さく、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雲取山（県内唯一の産地）

4024 ウメノキゴケ科

(和名) ツブクダチイ

(学名) *Menegazzia caviisidia* Bjerke & P.James

埼玉カテゴリー

2024 VU

2011 VU

2005 なし

1998 なし

全国カテゴリー

2020 NT

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯に産するが、量的にも少ない。最近の分類学的再検討により記載され、報告された種である（Moon et al., 2006）。

【県内生育状況】コメツガの樹皮上に着生する。

【特記事項】2007年環境省版の新規掲載種。本州中部に分布する葉状地衣。野外調査を含め、標本等を再調査する必要がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雁坂峠（県内唯一の産地）

4025 ウメノキゴケ科

(和名) ウスキクダチイ

(学名) *Menegazzia squamatica* K.H.Moon et al.

埼玉カテゴリー

2024 CE

2011 CE

2005 なし

1998 なし

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】稀産種。秩父山地亜高山帯に産するが、量的には少ない。最近の分類学的再検討により記載され、報告された種である（Moon et al., 2006）。

【県内生育状況】コメツガの樹皮上に着生する。

【特記事項】2007年環境省版の新規掲載種。本州中部に分布する葉状地衣。野外調査を含め、標本等を再調査する必要がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

十文字峠、雁坂峠～栃本間の地蔵岩

4026

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

(和名)

クロカワアワビゴケ

(学名)

Usnocytraria kurokawae (Shibuichi & Yoshida)M.J.Lai & J.C.Wei

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

稀少種および稀産種。秩父山地に稀産し、量的には少ない。新たな産地記録はない。さらに、産地の一つでは立枯れの木部着生は失われた可能性が大きい。

【県内生育状況】

山地のヒノキなどの老化した樹皮上に着生するも、わずかに岩上にも着生する。

【特記事項】

日本固有種。愛媛県・面河にも分布する葉状地衣。秩父、三峰山が模式産地だが、今のところ、着生の再確認がない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

大洞川惣小屋谷、三峰妙法ヶ岳

4027

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 NT

(和名)

キゴヘイゴケ

(学名)

Parmeliopsis ambigua (Wulfen) Nyl.

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。1978年以降、新たな分布記録はない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

亜高山の針葉樹（ヒノキ）の樹皮に着生する。

【特記事項】

北海道～本州中部に分布する葉状地衣。黄緑色の葉状体であるが小さいので見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

大洞川惣小屋谷（唯一の記録）

4028

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

(和名)

チヂレマツゲゴケ

(学名)

Parmotrema crinitum (Ach.) M.Choisy

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯で産するが、量的には極めて少ない。1980年以降新たな産地記録はない。

【県内生育状況】

低山帯のウメの木の樹皮上に着生する。

【特記事項】

本州福島県以南の海岸やそれに近い低山地域に分布する葉状地衣。暖かい地域にみらる種類なので、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

秩父市大滝上中尾（唯一の記録）

4029

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

(和名)

トゲタイワントコブシゴケ

(学名)

Platismatia erosa W.L.Culb. & C.F.Culb.

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

稀産種。秩父山地に稀産し、量的には少ない。1986年以降、新たな産地情報はない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

亜高山のシラビソなどの針葉樹などの樹皮上に緩く着生する。

【特記事項】

2007年環境省版の新規掲載種。本州中部の埼玉県、栃木県、長野県、山梨県、静岡県に分布している葉状地衣。長野県での記録は多い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

木賊山、甲武信岳の尾根で何れも県境の長野・山梨県側

4030

ウメノキゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 NT

(和名)

オオスルメゴケ

(学名)

Tuckermannopsis ulophylloides (Asahina) M.J.Lai

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。1982年以降、新たな産地情報はないが、改訂版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の岩石（非石灰質）上や針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】

日本固有種。本州関東以南～九州に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

小鹿野町尾ノ内谷尾根、秩父市大滝川又、雁坂峠、三国尾根、大血川、両神日向大谷

4031 ウメノキゴケ科

(和名) コナヘリウスカワゴケ

(学名) *Nephromopsis laureri* (Kremp.) Kurok.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の亜高山帯に産するが、量的には少ない。評価当初より、個体数等の変動もなく、推移しているものと思われる。

【県内生育状況】亜高山帯のシラビソなどの針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】本州中部の亜高山から高山（ハイマツ樹枝上）に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

三国尾根、大山、武信白岩～三宝山間、雲取山、木賊山（甲武信岳）

4032 ウメノキゴケ科

(和名) トガシアワビゴケ

(学名) *Nephromopsis togashii* (Asahina) A.Thell & Kärnefelt埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。1995年以来、新たな分布記録はなく、減少傾向にある。

【県内生育状況】山地帯の老化したマツ類の樹皮や朽ち木に着生する。

【特記事項】日本固有種。本州関東以南～四国に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰神社～雲取山間、秩父市大滝入川真の沢谷、秩父市大滝大血川、秩父市大滝大洞川惣小屋谷

4033 ウメノキゴケ科

(和名) ヨコワサルオガセ

(学名) *Usnea diffracta* Vain.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】秩父山地を含めた関東山地の主に亜高山帯のコメツガやシラビソ等の幹等に絡みつき垂れ下がる普通種だが、減少傾向にあり、着生が確認できない産地もでてきている。

【県内生育状況】ブナ帯から亜高山帯にかけての樹皮に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】学名変更。北海道～本州中部の主に亜高山帯に分布する樹枝状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

秩父山地亜高山帯に記録。中津川大山沢、川又～雁坂峠、浦山大平山、両神山、雲取山、三国尾根、熊倉山

4034 ウメノキゴケ科

(和名) ナガサルオガセ

(学名) *Usnea longissima* Ach.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】秩父山地を含めた関東山地の亜高山帯に産する普通種。シラビソ等の枝や幹、ツツジ科等の低木も覆うように絡みつき垂れ下がる。普通種だが減少傾向にあり、着生が確認できない産地もでてきている。

【県内生育状況】亜高山帯の針葉樹、カラマツ等の樹皮や枝先に絡みつき、垂れ下がる。

【特記事項】学名変更。北海道～本州中部の主に亜高山帯に分布する樹枝状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

白岩山、将監峠、三国尾根、秩父市大滝中津川大山沢、秩父市大滝川又～雁坂峠間

4035 ウメノキゴケ科

(和名) アカヒゲゴケ

(学名) *Usnea rubicunda* Stirt.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】

【県内生育状況】山地のスギの樹皮や朽ち木上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】北海道～四国に分布する樹枝状地衣、サルオガセの仲間。類似種と混同されて、見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰山（県内唯一の産地）

4036

ウメノキゴケ科

〔和名〕

アカサルオガセ

〔学名〕

Usnea rubroincta Stirt.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。

【県内生育状況】

山地の樹皮や朽ち木上、岩上にひげ状に着生する。時には垂れ下がる。

【特記事項】

北海道～九州に分布する樹枝状地衣、サルオガセの仲間。類似種と混同されて、見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

入川溪谷沿い、大血川西谷、十文字峠～ペンケイ岩間

4037

カブトゴケ科

〔和名〕

トゲカブトゴケ

〔学名〕

Lobaria kazawaensis (Asahina) Yoshim.

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

稀少種および稀産種。秩父山地に稀に産し、量的にも極めて少ない。1932年以降、県内の採集記録はない（Yoshimura. 1971）。

【県内生育状況】

山地の樹皮に着生する。

【特記事項】

日本固有種。本州中部の福島県、群馬県、新潟県、埼玉県、さらに愛媛県からも報告されている葉状地衣。県内では既に絶滅している可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雲取山（TNS）（県内唯一の産地）

4038

カブトゴケ科

〔和名〕

ツブカブトゴケ

〔学名〕

Lobaria tuberculata Yoshim.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産する。改訂版以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

ブナ帯から亜高山帯にかけての樹皮上に着生する。

【特記事項】

北海道～本州中部の山地帯より上部に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

三国峠～三国山頂間、三峰山、雁掛峠、浦山仙元峠

4039

カブトゴケ科

〔和名〕

キンブチゴケ

〔学名〕

Pseudocyphellaria aurata (Ach.) Vain.

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀少種および稀産種。県西部の山地に極めて稀に産した。1978年以降、県内では新たな分布記録はない。

【県内生育状況】

温暖な沢沿いのケヤキの樹皮に着生していた。

【特記事項】

本州～九州の暖かい地域に分布する葉状地衣。唯一の産地においても、その着生が確認できていない。県内では既に絶滅している可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

飯能市坂元（TNS：現・上長沢）（県内唯一の記録）

4040

カブトゴケ科

〔和名〕

トゲヨロイゴケ（タキミヨロイゴケ）

〔学名〕

Sticta weigelii Isert

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし

2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。前版以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の岩石上のコケを覆うように着生する。

【特記事項】

本州関東以南～九州・沖縄に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

横瀬町生川～武甲山、両神山

4041 カラタチゴケ科

〔和名〕 シナノカラタチゴケ

〔学名〕 *Ramalina shinanoana* Kashiw.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。前版以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山地のカラマツの樹枝、朽ち木上にひげ状に着生する。

【特記事項】本州中部、今のところ長野県、埼玉県に分布する樹枝状地衣。小さな個体なので、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雲取山、三国尾根

4042 カラタチゴケ科

〔和名〕 ヒロハカラタチゴケ

〔学名〕 *Ramalina sinensis* Jatta埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的に減少してしまった産地もある。産地も減少傾向にある。

【県内生育状況】山地帯の主に落葉広葉樹の枝よりも幹の樹皮上に着生する。

【特記事項】北海道～本州中部、隣接する長野県や山梨県においては、比較的多くの産地が記録されている樹枝状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

三国尾根、奥秩父林道脇

4043 キゴケ科

〔和名〕 ヒメカムリゴケ

〔学名〕 *Pilophorus curtulus* Kurok. & Shibuichi埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】秩父山地の亜高山帯に産するが、量的には少ない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】日本固有種。北海道～本州中部、長野県、山梨県、栃木県、埼玉県に分布する樹枝状地衣。小さい子柄であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

雲取山、熊倉山、雁坂峠

4044 キゴケ科

〔和名〕 オオカムリゴケ

〔学名〕 *Pilophorus acicularis* (Ach.) Th.Fr.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。1979年以来、新たな分布記録はないが、改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山地の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】本州中部、長野県、山梨県、栃木県、東京都、埼玉県に分布する小さなこん棒状の樹枝状地衣。長野県での記録は多い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

秩父（TNS）、文字峠、真の沢溪谷、甲武信岳

4045 ザクロゴケ科（チャシブゴケ科）

〔和名〕 コフキザクロゴケ

〔学名〕 *Loxospora glaucomiza* (Nyl.) Kalb & Staig埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 DD

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。1976年の初記録以来、新たな採集記録はない。

【県内生育状況】亜高山のコメツガ等の樹皮上に着生する。

【特記事項】北海道、栃木県、埼玉県、広島県、徳島県に分布する固着地衣。小さく目立たない地衣体であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

両神山（県内唯一の産地）

4046

サビイボゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

〔和名〕

オオサビイボゴケ

〔学名〕

Brigantiaea nipponica (M.Satô) Hafellner

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産し、量的には少ない。1972年の初記録以降、その後の分布情報はない。

【県内生育状況】

山地の針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】

北海道～本州に分布する固着地衣。小さく目立たない地衣体であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

大山（県内唯一の産地）

4047

センニンゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

コツブセンニンゴケ

〔学名〕

Baeomyces aggregatus Asahina

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。

【県内生育状況】

山地のスギやヒノキの老樹皮上あるいはその立ち枯れ木上に着生する。比較的大きなコロニーとなることもある。

【特記事項】

富山県以南の本州や九州に分布記録がある。褐色の小さなブドウ状の子器が目立つ鱗片状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

雁坂峠黒岩、両神山

4048

センニンゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

センニンゴケ

〔学名〕

Dibaeis arcuata (Stirt.) Kalb & Gierl

【評価所見】

稀産種。秩父山地や県西部の低山に産するも、量的には少ない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の地上や岩石上に着生する。

【特記事項】

北海道～四国に分布する子柄が目立つ鱗片状地衣。小さな個体が故に、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○					○			

両神山、日高市横手

4049

チャシブゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

アワモチゴケ

〔学名〕

Lecanora decorata Vain.

【評価所見】

稀産種。秩父山地の高山性風衝地に産するが、量的には少ない。1976年以降、新たな産地記録はない。改訂版の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】

本州岩手～中部に分布する高山性固着地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

三宝山（県内唯一の産地） 三宝岩

4050

ツブミイボゴケ（カラタチゴケ）科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

フジカワゴケ

〔学名〕

Toninia tristis (Th.Fr.) Th.Fr. subsp. fujikawae (M.Satô) Timdal

【評価所見】

稀少種および稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1982年以来、新たな産地記録はない。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に直に着生することが多い。既存産地で継続して生育が確認される。

【特記事項】

日本固有種。本州から四国、九州に分布する固着地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

梓白岩、二子山、白石山

4051

ツメゴケ科

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

【和名】

ウチキウラムゴケ

【学名】

Nephroma servitianum Gyeln.

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の樹皮上に着生する。

【特記事項】

日本固有種。北海道から四国に分布する葉状地衣。褐色の地衣体であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

白泰山～赤沢岳、雁坂峠、雲取山

4052

ツメゴケ科

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 なし

2011 NT
1998 なし

【和名】

ファイリツメゴケ（ヒメツメゴケモドキ）

【学名】

Peltigera didactyla (With.) J.R.Laundon

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、1982 年以降、新たな産地記録はない。

【県内生育状況】

林床や道路沿いのノリ面上の蘚類や土壌上に着生する。

【特記事項】

前版追加種。北海道～本州中部に分布する葉状地衣。かつて人家の麦藁屋根に生育していたが、いまではその人家はない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○		○				

秩父市黒谷、大血川東谷、秩父市浦山山地内大平山

4053

ツメゴケ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 なし

2011 CE
1998 なし

【和名】

コヒラミツメゴケ

【学名】

Peltigera nigripunctata Bitter

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1969 年以来、新たな採集記録はない。県内では、すでに絶滅してしまった可能性が大きい。

【県内生育状況】

亜高山帯の地上に蘚類などと混生する。

【特記事項】

北海道から本州中部に分布する比較的大型の葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

三峰山（TNS）、白岩山（TNS）

4054

ツメゴケ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

【和名】

ヒラミヤイトゴケ

【学名】

Solorina platycarpa Hue

【評価所見】

稀少種および稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。初版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の石灰岩露頭や石灰質土壌上に着生する。

【特記事項】

日本固有種。今のところ、本州中部以南、埼玉、長野、山梨県内の石灰岩地に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

白岩山、梓白岩、奥秩父林道脇石灰岩露頭

4055

テロスキステス科

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

【和名】

アカサビゴケ

【学名】

Xanthoria mandschurica (Zahlbr.) Asahina

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に直に着生することが多い。

【特記事項】

北海道～本州に分布する葉状地衣。橙赤色の地衣体は目立つ。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

三国尾根梓白岩、小鹿野町二子山

4056

ハナゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

(和名)

ヘラゴケ

(学名)

Glossodium japonicum Zahlbr.

【評価所見】

稀少種かつ稀産種。秩父山地に産し、量的にも少ない。三峰山が模式産地。その生育環境は大きく変貌したため、現在、着生確認はできていない。

【県内生育状況】

山地の針葉樹の朽ちた切り株などに着生する。

【特記事項】

2007年環境省版の新規掲載種。北海道～四国の山地に分布する鱗片状地衣。地衣体に小さなヘラ形の子柄ができる。特殊な生育環境をもっているため、既存産地確認は

難しい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

三峰山、熊倉山、水晶山

4057

ヘリトリゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし

2011 NT
1998 なし

(和名)

モクズゴケモドキ (ヒメカイガラゴケ)

(学名)

Psorula rufonigra (Tuck.) Gotth.Schneid.

【評価所見】

稀産種。秩父地域の低山や荒川流域に産するが、量的には少ない。評価当初より個体数等の変動もなく、推移しているものと思われる。

【県内生育状況】

川岸や岩山の安定した岩上、あるいはその割れ目に堆積した土や砂の上に着生する。

【特記事項】

前版追加種。本州中部以南～九州に分布する鱗片状固着地衣。新たな産地として、山地の岩山が追加された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○		○				

長瀬町地内荒川川岸、小鹿野町観音山

4058

ムカデゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

(和名)

イトゲジゲジゴケ

(学名)

Heterodermia boryi (Fee) Kr.P.Singh & S.R.Singh

【評価所見】

稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内生育状況】

山地の樹皮、または岩石にセン類と混生。

【特記事項】

北海道～四国に分布する葉状で、細長く伸長した地衣体をもつ。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

両神山、川又、三峰山、栃本～白泰山、小倉沢赤岩峠

4059

ムカデゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

(和名)

チヂレゲジゲジゴケ

(学名)

Heterodermia dissecta (Kurok.) D.D.Awasthi

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯地域に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内生育状況】

暖地の岩石にセン類と混生する。

【特記事項】

本州関東以南～九州まで、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

小鹿野町観音山、小鹿野町岩殿沢

4060

ムカデゴケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 NT

(和名)

ラッパゲジゲジゴケ

(学名)

Heterodermia hypochraea (Vain.) Swinscow & Krog

【評価所見】

稀産種。秩父山地の山地帯地域に産するが、量的には少ない。1986年以降、新たな産地記録はない。

【県内生育状況】

山地の岩石や樹皮上に着生。

【特記事項】

北海道～九州の山地に分布する葉状地衣。小さな個体なので、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

秩父市浦山大平山、大洞川惣小屋谷

4061 ムカデゴケ科

(和名) エゾハクフンゴケ

(学名) *Physconia hokkaidensis* Kashiw.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1982年以来、新たな分布記録はない。

【県内生育状況】山地帯の岩上や林道脇の崖に着生する。

【特記事項】2007年環境省版の新規掲載種。北海道～本州中部に分布する葉状地衣。隣接する長野県の八ヶ岳では比較的普通にみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

大血川谷、秩父市浦山地内大平山

4062 モジゴケ科

(和名) カバイロイワモジゴケ

(学名) *Graphis cervina* Mull.Arg.埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】稀産種。2003年に、県西部の大高取山から採集され、それ以降の産地記録では飯能市内を流れる入間川河岸からの報告があるに過ぎない。

【県内生育状況】暖地の岩石（チャート）上に着生する。

【特記事項】本州山形県以南～九州の平地に分布する固着地衣。岩上に固着するモジゴケ類。まぎれやすい地衣体であるため、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

入間郡越生町、大高取山、飯能市入間川河岸

4063 リキナ科

(和名) チヂレケゴケ

(学名) *Ephebe japonica* Asahina & Henssen埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地に産するも、量的には少ない。1978年の採集が唯一の記録となり、その後の分布記録はない。

【県内生育状況】山地の日当たりのよい露岩上にコケ類と混じって着生する。

【特記事項】2005年版追加種。日本固有種。本州～四国に分布する黒褐色の糸状地衣。見落としている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

三峰妙法ヶ岳（県内唯一の産地）

4064 リキナ科

(和名) イシバイキノリ

(学名) *Thyrea confusa* Henssen埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 DD

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産し、量的にも少ない。初版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山地の石灰岩上に着生する。

【特記事項】2007年環境省版の新規掲載種。学名変更。本州岩手県以南～九州の山地に分布する黒い鱗片状地衣。同定が難しいことから、見落としている可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

雁坂峠、梓白岩、二子山

4065 リキナ科

(和名) アカツブノリ

(学名) *Synalissa symphorea* (Ach.) Nyl.埼玉カテゴリー 2024 CE 2011 CE
2005 CE 1998 CE

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯に産するが、量は少ない。1988年以降、新たな産地記録はないが、初版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に直に着生する。

【特記事項】本州中部以南～九州の石灰岩地に分布する膠質状鱗片地衣で、黒褐色の小さな塊状地衣体。確かな記録はないが、武甲山の産地消滅は推察される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

二子山、梓白岩

4066

リキナ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

和名

キシセガワノリ

学名

Thyrea asahinae (Yoshim.) Yoshim.

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父地域荒川河川沿い地域に産し、量は極めて少ない。1978年以降、新たな産地記録はないが、初版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

川岸の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】

本州中部以南、四国、九州の川岸岩上に分布する黒褐色の鱗片状地衣。現産地は観光地であるためコロニーの破損が懸念される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				

長瀬町地内荒川川岸（県内唯一の産地）

4067

リキナ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

和名

ミタキレンダイゴケ（ミタキノリ）

学名

Lichinella hondana (Zahlbr.) P.P.Moreno & Egea

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父地域の荒川河川沿い地域に産し、量は極めて少ない。1978年以降、新たな産地記録はないが、初版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

川岸や川原の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】

本州、四国の川岸岩上に分布する黒褐色の鱗片状地衣。現産地は観光地であるためコロニーの破損が懸念される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				

長瀬町地内荒川川岸（県内唯一の産地）

4068

リキナ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CE

和名

オオバキノリ（オオバキシセガワノリ）

学名

Thyrea latissima Asahina

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

稀少種および稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には極めて少ない。1982年以来、新たな分布記録はないが、初版の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の石灰岩露頭の垂直面に直に着生する。

【特記事項】

本州（埼玉県、岡山県）と四国（徳島県）に分布する希少種で、黒灰色の鱗片状地衣。既存産地で継続して生育が確認される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

秩父市大滝神岡（県内唯一の産地）

4069

担子地衣（ウロコゴケ科）

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

和名

アオウロコゴケ

学名

Lichenomphalia hudsoniana (Jennings) Redhead et al.

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。改訂版の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内生育状況】

山地の腐朽した蘇類上や土壌上に着生する。

【特記事項】

北海道～本州に分布する鱗片状の担子地衣で、担子菌のヒメサカズキタケ属のきのこを発生させる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

雁坂小屋付近、三国峠～十文字峠間、大山（写真記録）